

第1. はじめに

1.1. 計画の目的

仙台市の国見浄水場は稼働開始から 60 年以上経過し、施設の老朽化が進行しており耐震性にも課題があります。また、中原浄水場は全面改修から 40 年以上経過し、国見浄水場と同様に耐震性に課題があります。これらより「仙台市水道事業基本計画 (R2～R11)」では、共に大倉ダムを水源とする国見浄水場と中原浄水場を統合し、新浄水場を整備することで、長期的なトータルコストの削減や非常時のバックアップ機能を強化することとしています。また、小規模浄水場である熊ヶ根浄水場についても統廃合を行うことで、水需要に合わせた水道施設の再構築を推進していくことと致しました。

一方、塩竈市の梅の宮浄水場は、大倉川からの取水、導水施設を仙台市と共同利用しており、仙台市の国見浄水場からは塩竈市単独施設で原水を導水しています。梅の宮浄水場も稼働開始から約 60 年経過し、施設の老朽化が進行していることから、令和 2 年 9 月に将来的な水運用について検討を行い、梅の宮浄水場の単独更新よりもコストや維持管理、リスクの面で優位性が高いと判断し、国見・中原浄水場の統合整備に参画することと致しました。

以上のことから、仙台市と塩竈市の共同浄水場の整備に向け、令和 3 年 3 月に「塩竈市・仙台市共同浄水場の整備に向けた計画策定に関する覚書」を締結しました。

本計画は共同浄水場の整備を推進していくことを目的として、施設能力、浄水処理方法、概算事業費、整備スケジュール等を検討し、整備計画として取りまとめたものです。

1.2. 計画の位置付け

仙台市では仙台市基本計画にて「挑戦を続ける、新たな杜の都へ ～“The Greenest City” SENDAI～」を掲げており、その個別計画として、仙台市水道事業基本計画、仙台市水道事業中期経営計画と位置付けております。

また、塩竈市では「海と社に育まれる 楽しい塩竈」を基本理念とした第6次塩竈市長期総合計画を策定しており、この個別計画として、塩竈市水道事業基本計画、塩竈市水道事業経営戦略と位置付けております。

本計画は上記の計画に基づいて策定するものです。

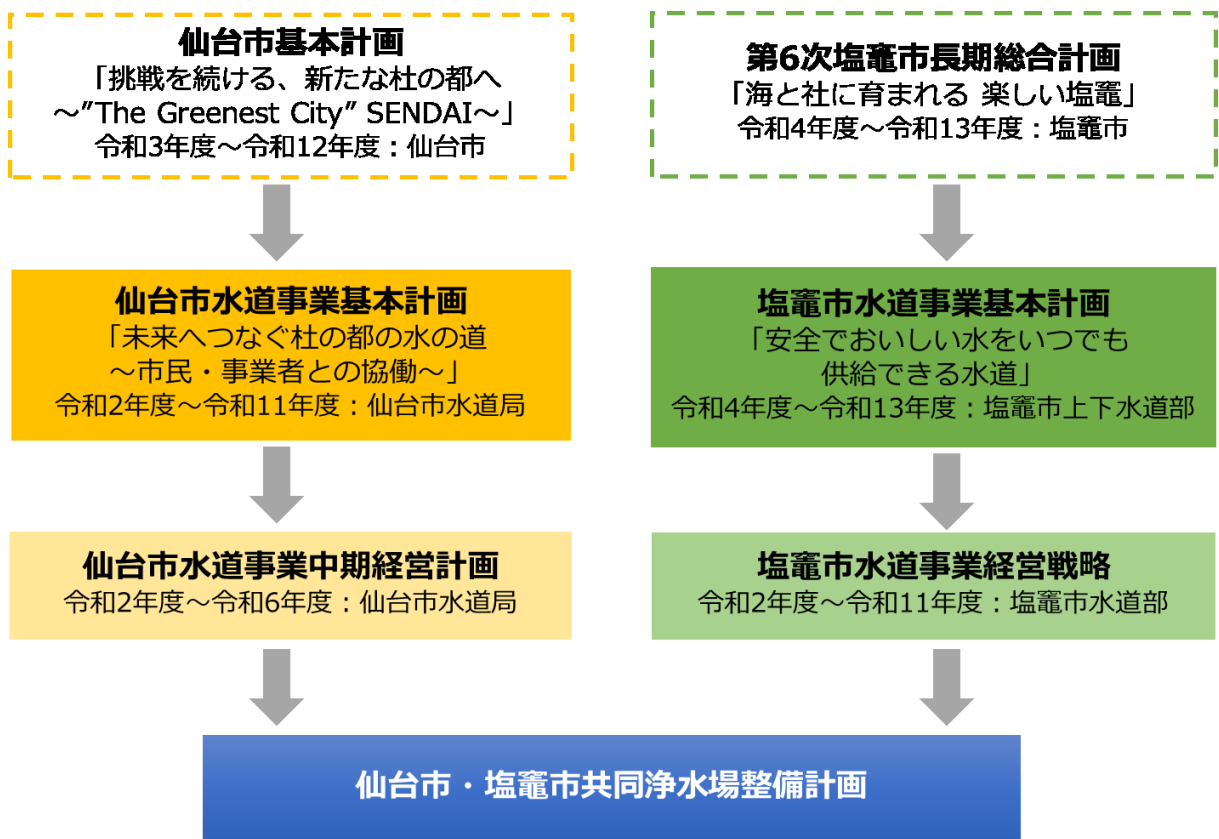


図 1-1 計画の位置付け